

## 令和3年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画ととりまとめ課	まちづくり局交通政策室	要素事業所管課	まちづくり局交通政策室
-----------	-------------	---------	-------------

## 1 計画の概要

計画の名称	南武線駅アクセス向上等整備事業	計画の期間	平成29年度～ 令和3年度
計画の目標	JR 南武線について、渋滞や踏切部の解消・環境改善等に向け、武蔵小杉駅から武蔵溝ノ口駅間の連続立体化が完了し、尻手駅から武蔵小杉駅間については、連続立体交差事業の事業実施に向けた関係機関との協議・調査等を進めている。こうした中、武蔵溝ノ口駅以北の5駅（稲田堤駅、中野島駅、宿河原駅、久地駅、津田山駅）については、片側改札口となっていることから、駅へのアクセス向上が求められている。このため、関係機関との協議等を踏まえ、鉄道による地域分断の改善や安全性・利便性の向上など駅へのアクセス向上に向けた取組を推進する。		
計画の成果目標（定量的指標）	① 稲田堤駅の改札口に近接する踏切の、歩行者約28,000人/日を約4,000人/日に削減 ② 津田山駅の改札口に近接する踏切の、歩行者約6,000人/日を約2,000人/日に削減 ③ 久地駅の改札口に隣接する踏切の、歩行者約9,000人/日を約1,000人/日に削減 ④ 中野島駅の改札口に隣接する踏切の、歩行者約19,000人/日を約3,000人/日に削減		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	・計画期間の延伸等（津田山駅周辺地区都市交通システム整備事業の完了時期延伸のため） ・中野島駅周辺地区都市交通システム整備事業を要素事業に追加した。		

## 2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（概要）

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	稲田堤駅周辺地区都市交通システム整備事業	3,310,000	4,267,000	1,265,541	29.7	次期計画に移行
	津田山駅周辺地区都市交通システム整備事業	2,339,000	2,479,000	2,138,289	86.2	完成
	久地駅周辺地区都市交通システム整備事業	2,875,000	2,875,000	22,431		次期計画へ移行
	中野島駅周辺地区都市交通システム整備事業	—	49,000	22,473		次期計画へ移行
B (関連社会資本整備事業)						
C (効果促進事業)						
全体事業費(A+B+C)		8,524,000	9,670,000	3,448,734 【財源内訳】 国:1,149,578 市:2,299,156		

## 3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	踏切歩行者数			
定義及び算定式	改札口に近接している踏切の歩行者数			
その指標を設定した理由	自由通路及び橋上駅舎化が整備されることにより、踏切両側から駅へアクセスできるようになり、改札口に近接する踏切の歩行者数が減少するため。			
当初現況値(H29)	中間目標値	最終目標値(R3)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
① 約28,000人 ② 約6,000人 ③ 約9,000人 ④ 約19,000人	—	① 約4,000人 ② 約2,000人 ③ 約1,000人 ④ 約3,000人	① 約28,000人 ② 約1,927人 ③ 約9,000人 ④ 約19,000人	① 未達成(R5年度完成予定) ② 達成 ③ 未達成(未完成) ④ 未達成(未完成)

目標達成状況に対する所見	津田山駅について、自由通路等の完成に伴い、整備前に約 6,000 人だった踏切歩行者数が整備後に 1,927 人（目標値：約 2,000 人）に減少しており、事業効果が発現しています。また、 <u>関係者間の調整を進めていく中で、小学校から通用門の設置の要望があり、自由通路が近接する小学校の通学路となったことから、踏切を渡っていた小学生の通学時の安全性が向上したと考えております。</u> その他の駅については、自由通路及び橋上駅舎化が未整備であるため、事業効果が発現されていません。
将来の見込み	自由通路及び橋上駅舎等整備により目標値を達成するものと見込んでおります。

#### 4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	なし
定義及び算定式	
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	

#### 5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	・ヒアリング調査 内容：津田山駅自由通路等整備に関するヒアリング調査、 手法：津田山駅自由通路での記入式による調査 実施期間：10月4日
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	・整備効果について、好意的な意見が大半を占めた。 ・整備効果が発現されていることから、駅アクセス向上等事業の計画を継続し、工事や事業化に向けた取り組みの推進を図るとともに、既存施設の活用などを含め、事業効果の早期発現を目指します。

#### 6 今後の方針等

総合的な所見	津田山駅について、自由通路等の完成に伴い、踏切横断者数が減少しており、事業効果が発現している。また、これまで踏切を横断していた下作延小学校の児童が、自由通路を通学路とすることにより、通学時の安全性が高まった。 稲田堤駅については、令和5年度の完成予定として、現在、自由通路及び橋上駅舎の工事が進捗していることから、完成後は津田山駅同様に効果が発現されるものとする。 その他の駅については、自由通路及び橋上駅舎化が未着手であり、事業効果があらわれていない。事業化には時間を要するが、早期事業化に向けた取り組みを進める必要があると考える。 <u>なお、中野島駅については、市単独事業で整備した臨時改札口の設置により、一定の利便性の向上が図られた。</u>
今後の方針	・鉄道による地域分断の改善や踏切を横断する駅利用者の安全性、利便性を高めるなど、駅アクセス向上に向け、引き続き、駅アクセス向上等整備事業の計画を継続し、工事や事業化に向けた取り組みの推進を図り、事業効果の早期発現を目指します。
次期計画	あり・なし